

「竜巻に関する共同研究会、合同研究集会」

竜巻に関する以下の3つの共同研究課題について、合同研究会を開催する運びとなりました。

関連分野の研究者のご参加をお願い申し上げます。

特別課題研究「日本における竜巻発生環境の客観的評価」 代表：佐々 浩司（高知大学）

現在気象庁が取りまとめている竜巻等突風データベースは発生確認数を表しており、人口バイアスなどにより統計に乗らない事例も少なからずあるものと懸念される。そこで、レーダーや地上観測データ、客観解析データなどを用いて、そもそも日本のどの地域や時期が竜巻発生のポテンシャルが高いのかを明らかにする。

特別課題研究「種々の非定常竜巻流れに対応する工学的竜巻モデルの開発」 代表：野田 稔（高知大学）

対竜巻設計において、飛散物の衝突速度や風荷重を算定するためには、流れ場の表現が極めて重要である。しかし、Rankine 渦ベースの藤田モデル以降大きな進展はなく、竜巻の非定常性や移動効果を考慮した実情に近い竜巻の流れ場モデルは存在しない。そこで、実験や数値解析によって再現した竜巻状流れ場の三成分の風速分布を合理的に表せる工学的竜巻モデルの構築を目指す。

一般研究「藤田哲也博士の残した研究資料のデジタルアーカイブ化」 代表：野田 稔（高知大学）

突風研究の先駆者として米国でミスター トルネードと呼ばれた藤田哲也博士が逝去された際に日本に持ち帰られた遺品には、膨大な研究資料が含まれている。しかし、風工学分野の貴重な資料である無数のスライドや写真、映画フィルム等の恒久的な物質的保存は困難である。そこで、これらの貴重な資料を後世に伝えるため、デジタルアーカイブ化プロジェクトを立ち上げた。

開催日時：2019年3月2日（土） 13:30～17:30

開催場所：高知大学理工学部1号館101号室

参加申込：高知大学理工学部 野田 稔（088-844-8324, noda@kochi-u.ac.jp）までお申し込みください。

プログラム

13:30～14:30 日本における竜巻発生環境の客観的評価

趣旨説明 高知大学 佐々 浩司

講演1「気象庁レーダーによる渦の特性とGPVデータを用いた環境パラメータの調査」

高知大学 佐々 浩司 気象研究所 津口 裕茂

講演2：「全国の気象官署の地上データを用いた突風の統計解析」 気象研究所 益子 渉

休憩（10分）

14:40～15:40 種々の非定常竜巻流れに対応する工学的竜巻モデルの開発

趣旨説明 高知大学 野田 稔

講演1「工学的竜巻モデルの方向性」 高知大学 野田 稔

講演2「竜巻状流れ場の計測と性質」 東京工芸大学 松井正宏、劉美智

休憩（10分）

15:50～16:10 藤田哲也博士の残した研究資料のデジタルアーカイブ化

報告「藤田資料デジタルアーカイブ化作業の進捗状況」 高知大学 野田 稔

16:10～16:35 藤田資料保管状況・ドップラーレーダー施設の見学

休憩（5分）

16:40～17:30 フリーディスカッション